

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.118

2021.9.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.118 目次

| | |
|---|-------|
| コロナ禍でのモーリシャス共和国への渡航と、同国の流出油防除体制の情報収集・確認調査 | 2-5 |
| 施設紹介ー熊本県鳥獣保護センター | 6-7 |
| 施設紹介ー釧路市動物園 | 8-9 |
| 令和3年度 油等汚染事故対策水鳥救護研修のご案内 | 10 |
| 書籍紹介ー「野生動物医学への挑戦 寄生虫・感染症・ワンヘルス」(浅川満彦 著) | 11 |
| 寄付のお礼 | 11 |
| 事務局日誌 | 11-12 |

コロナ禍でのモーリシャス共和国への渡航と、 同国の流出油防除体制の情報収集・確認調査

一般財団法人海上災害防止センター 垣本英臣

はじめに

2020年7月25日、モーリシャス共和国（以下「モーリシャス」という。）の南東沖のサンゴ礁に、日本企業所有の貨物船が座礁して船体に亀裂が入り、8月6日頃から約1,000トンの燃料油（C重油）が流出する事故が発生しました。流出した重油は、ラムサール条約の登録地（BLUE BAY MARINE PARKとPOINTE D'ESNY WETLAND）や自然保護区、マングローブ林が点在するモーリシャスの南東部海域の海岸線に漂着しました。

モーリシャスの美しさは、「インド洋の貴婦人」とも形容され、欧州の人々に好まれる世界屈指のビーチリゾートです。その美しい海岸線が重油に汚染され、モーリシャスの国民が油防除作業を行っている映像は、センセーショナルに報道されました。日本政府はモーリシャス政府の支援要請を受けて、国際緊急援助隊専門家チームを3隊派遣し、油防除に関する指導・助言、環境分野の支援活動を行いました。引き続き支援策として独立行政法人国際協力機構（JICA）は、環境や水産分野、海難事故防止及び事故対応能力向上を図る協力を、効果的に進めていくための情報収集を目的とした調査団を派遣しました。私は、この情報収集・確認調査団の一員として流出油防除体制分野を担当し、2020年11月22日から12月21日までの間モーリシャスで調査を行いました。

WRV ニュースレターの紙面をお借りして、簡単ではありますがコロナ禍での海外渡航（珍道中）と、私が担当した流出油防除体制調査をご説明させていただきます。

コロナ禍での渡航

普段なら渡航者で混雑する成田空港の国際線ターミナルも、コロナ禍で殆ど人がおらず静まり返った雰囲気の中、モーリシャス渡航のためにエールフランス航空のカウンターでチェックイン作業を行いました。

通常なら香港経由やドバイ経由など、モーリシャスへの乗継経路はいくつかありますが、私が渡航した週はフランス経由便しかありませんでした。（実は、予約時はドバイ経由でしたが、キャンセルが発生し移動時間が一番長いパリ経由になりました。）私の調査には、

JICA職員の方が同行してくださり2名での渡航で心細さが和らぎましたが、パリの空港では拙い英語で空港職員に質問し、苦勞しながら得た情報は、パリからモーリシャスへ飛ぶ乗継便（モーリシャス航空）が故障のため飛ばずパリで1泊しなくてはならない、という事でした。幸いにもモーリ



閑散とした成田空港の出国カウンター

シヤス航空が宿泊代を出してくれることが分かり、空港で数時間待ち、ホテルチケットを受け取り空港周辺のホテルで1泊過ごすことができました。

翌日は早朝に目を覚まし、空港に向かうと、修理が終わった飛行機が無事に飛ぶとの情報を得て、モーリシヤス航空の便に搭乗しましたが、乗務員がコロナ対策で防護服を着ています。当然搭乗者もマスクは必須でしたが、各席では予備マスクと消毒液が渡され、何だか乗客が「ばい菌」と錯覚するほど、コロナに対して厳戒態勢でした。それというのも島嶼国であるモーリシヤスは、コロナ罹患者による医療崩壊を警戒し、極めて厳しくコロナ対策を行っていました。



防護服を着たキャビンアテンダント

モーリシヤスの空港に到着すると、日本国内で検査したPCRの陰性結果や検疫隔離用ホテルの事前予約表など、通常の海外渡航には必要ない書類のチェックが細かく行われ、最終的に空港内でPCR検査を受け、荷物を受け取り隔離用ホテル直行のバンに乗り込みました。バンはモーリシヤス国内の街灯の少ない真っ暗な道を、警察の白バイ先導のもと猛スピードでホテルに向かいます。ホテル到着後もフロントに通されること無く、各部屋に直接案内され2週間隔離が始まりました。

私達の宿泊したホテルは島の北東側にあり、インド洋に面し外洋からの強めの風と、サンゴ礁に打ち付ける波音が、絶えず聞こえました。部屋に備えてあるメニュー表から毎日3食電話で食事を注文し、ドア前に届けられた食事を食べ、部屋から出ることは許されませんでした（1週間経過後のPCR陰性結果で、モーリシヤス保健省立ち合いのもと、首都エリア以外の調査は辛うじて許されました）。



ホテルのベランダからの眺め

唯一の気晴らしは、部屋のバルコニーから見えるヤシの木、その先にコバルトブルーの海・サンゴ礁と、そして大海であるインド洋を眺めることでした。隔離中には計2回、各人の部屋でPCR検査を受け陰性の結果を受け取りましたし、隔離の間もWeb会議システムを使用し、今回の調査業務に関してモーリシヤス政府機関と毎日会議を行い、事前情報の収集や対面調査の予約など、忙しく過ごしているうちに14日間の隔離が終わり、晴れてホテルの部屋から出られたときは、格別に嬉しかったです。しかし隔離が終わったから、と自由に出歩けるのではなく、マスク着用で密を避けての行動を心がけていました。

調査業務

今回、私が渡航し実施した調査業務は、座礁事故に端を発するものですが、座礁事故そのものの調査ではなく、モーリシヤスの海難防止及び流出油防除体制の強化に係る情報収集・確認調査であ

り、私は流出油防除体制に係る部分を担当しました。そのため、調査はモーリシャスの政府機関が対象で、事故対応で活躍した環境省、National Coast Guard (NCG・海上保安機関)、Special Mobile Force (SMF・警察機動隊機関) などから聞き取り調査を行いました。

座礁後、流出油が発生するまで数日ありましたが、政府機関は率先して流出油に備える作業が進められず、船体に亀裂が入り流出油が発見されてからは、あっという間に油が海岸線に漂着してしまった、と報告がありました。また、モーリシャス政府機関が事故前から保有していた油防除資機材は、沖合での防除作業に適した中型・大型資機材が多く見受けられ、サンゴ礁内の浅い海域で活用できる資機材が少なかったことも、聞き取り調査で分かりました。そして、浅い海域の多いモーリシャスでは、サンゴ礁周辺での油処理剤（油分散剤）の使用を法律で禁止しています。脆弱度が高く油防除作業が難しいマングローブ林に、流出油が多く漂着してしまった一因に、油処理剤の未使用が挙げられるのでは、と考えられました。



NCG 保有の中型油防除資機材等

今回の座礁事故の油防除作業には、フランスとギリシャの油防除作業を行う民間企業が従事しており、渡航中にマングローブ林の清掃活動を見学することができました。通常干潟、特に泥干潟に漂着した油は、防除作業を行うことで油が干潟の土壌内に入り込んでしまう可能性が高く、状況にもよりますが、自然分解を優先し、積極的な油防除を行わない場合もあります。



マングローブ林の洗浄作業

さらに干潟に育成するマングローブは気根が入り組んでおり、一度油が入り込んだら清掃作業が困難を極めるため、なるべく油を漂着させたくない場所の一つでもあります。残念ながら今回の事故は、多くの流出油が沿岸のマングローブ林に漂着したため、防除作業を実施せざるを得ない状況だったのでしょうか。防除活動のアドバイザー的存在であった The International Tanker Owners Pollution Federation Limited (ITOPF) の専門家や各国の専門家が協議し、マングローブ林（多くがオオバヒルギ）を1本ずつ手作業でふき取りを行い、その後ポンプで海水をくみ上げ、ある程度の水圧で洗浄し、また、林床土壌内にしみ込んだ油を除去するため、土壌内に海水を送り込み、攪拌して洗浄する作業が行われていました。このような洗浄作業をする場所はチューブ型吸着材等で囲まれており、土壌から洗い流され再浮上した油が吸着材



土壌内の攪拌作業

で囲われた場所の所々に溜まるので、ひしゃく等で少しずつ回収していました。このような地道な作業は、流出油事故により就労できない地元の漁師や、ダイビング会社の職員が雇用されていました。

私が現地調査をしたのは、事故発生から約4ヶ月経過した12月の初旬でした。ほとんどの流出油は回収・清掃され、数カ所のマングローブ林で防除作業が行われているのみでしたが、今後も引き続き経過観察をして、流出油の影響、防除作業の影響を調査していくと環境省から報告を受けました。



再浮上した油の回収作業

最後に

モーリシャスは東京都とほぼ同じ面積(2040km²)で、人口約126.5万人の島国ですが、GDPはアフリカ諸国全体で第2位であり、かなり発展した国です。国内を移動すると、サトウキビのプランテーションが多く見られ、観光、そして繊維産業が発展しているそうです。コロナ禍により観光業が大きなダメージを受けている中、今回の座礁事故はモーリシャスの海洋環境にとって痛手となり、多くの国民がサトウキビの皮を網で包んだ即席のオイルフェンスを作成し、油防除作業に関わったことが報道されていました。しかし同時に、大量の油性ゴミが発生し、その処理方法に苦慮していることも環境省担当者が説明してくれました。



ホテルのベランダで撮影

私が渡航中に、茂木外務大臣がモーリシャスを訪問し、流出油被害状況を視察、モーリシャスのジャグナット首相を表敬されました。そして外務省は、モーリシャス政府に対し最大300億円の円借款を発表し、海難防止分野、環境分野、漁業分野で、今後の技術協力プロジェクトが予定されています。今回の私の調査がどのようにプロジェクトに活用されるかは分かりませんが、モーリシャス、ひいてはサンゴ礁を有する島嶼国の流出油防除体制の強化に少しでも貢献できればと考えています。

学生の頃、バードウォッチングに夢中になっていた私は、今でも渡航先に双眼鏡を持ち込み、書店でその国の鳥類図鑑、動植物図鑑などを購入して、探鳥することを密かな楽しみにしています。しかし、今回の渡航はコロナ禍だったため、今までの海外渡航とは一変し、外を自由に歩けることも少なく、また、毎日各機関から入手した資料の通読や資料整理に追われて、双眼鏡を覗く機会はありませんでした。そのような中、ホテルのベランダに遊びに来て、囀りを披露してくれた小鳥に癒されました。(インターネットで調べたら、アカヒゲヒヨドリのようなようです。)

熊本県鳥獣保護センター

熊本県環境生活部環境局自然保護課野生鳥獣班

熊本県上益城郡御船町大字高木4494-26

1. 概要

熊本県鳥獣保護センターは、昭和56年10月に開館し、総面積20.7haの敷地に本館（展示室、研修室、展望室等）、鳥獣救護舎、シカ園、野鳥園、探鳥路及び名花園等を整備し、鳥獣保護思想や自然保護思想の普及啓発、傷病鳥獣の保護等の管理運営を行ってきました。

なお、平成20年度末に野鳥園やシカ園等の施設を廃止し、現在では傷病鳥獣の保護に特化して、業務委託により管理運営を行っています。



<鳥獣保護センター本館>

【センター施設】

建物：本館942㎡、鳥獣救護舎100㎡

【センターの管理形態の変遷】

- ① S56.10 ~ S59.3 : 県営
- ② S59.4 ~ H18.3 : 地元市町村へ委託
- ③ H18.4 ~ H21.3 : 指定管理者
- ④ H21.4 ~ : 業務委託（企画提案型）

2. 業務内容

業務については、熊本県鳥獣保護センター管理運営要綱及び同要領、熊本県鳥獣保護センター傷病及び飼養鳥獣取扱要領等に基づき、下記業務を行っています。

- ① 傷病鳥獣の保護（受け入れ及び治療、リハビリ、放鳥獣）
- ② 傷病鳥獣の保護についての指導及び助言
- ③ その他センターの目的を達成するために必要な業務

運営体制は、常時、3名を配置し業務にあたっています。

【傷病鳥獣の保護及び放野数】

| 年 度 | 鳥 類 | | 獣 類 | | 合 計 | |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 保護数 | 放野数 | 保護数 | 放野数 | 保護数 | 放野数 |
| 平成 30 年度 | 557 | 437 | 22 | 3 | 579 | 440 |
| 令和元年度 | 428 | 275 | 7 | 7 | 435 | 282 |
| 令和 2 年度 | 246 | 131 | 59 | 50 | 305 | 181 |



<ヒナで持ち込まれたフクロウ>



<ヤマネ（熊本県 RDB 準絶滅危惧種）R3.5 に放野>

現場からの声【センター受託会社 NPO法人 西山会】

令和 2 年度から当センター業務に携わっております。

当センターにはヒナから大型獣類まで様々な傷病鳥獣が持ち込まれてきて、必要に応じて獣医師の診断や助言を受けながら、給餌、飛翔訓練等を行い、放野に繋げていますが、治療の甲斐なく死に至るケースもあります。

傷病鳥獣等の相談は、多い時には月に 100 件ほどあります。その対応では、感謝のお手紙等をいただくこともありますし、保護対象外の鳥獣への対応では、相談者の方に対象としない理由を説明し、時には厳しい言葉を投げかけられることもあります。理解を得られるよう努めています。

また、多くの方々に当センターを知ってもらうため、HP も開設し、活動内容やケガをした鳥獣の対応方法、ヒナの取扱いなどを周知しています。

これからも、保護された鳥獣をできる限り放野できるよう、職員一同さらなる知識・技術のレベルアップに努めていきたいと思っております。



釧路市動物園

釧路市動物園 ツル担当（獣医師） 飯間 裕子

【釧路市動物園について】

釧路市動物園は、北海道の、日本最大の湿地である釧路湿原の西端に位置する動物園です。国内の動物園の中でも有数の敷地面積（47.8ha）の中には、園内の湿地を中心に「北海道ゾーン」が整備されています。北海道に生息する哺乳類や鳥類の展示と共に、湿地に整備された全長 450m ほどの木道では、四季折々に野生の鳥類や両生類、昆虫、植物が観察できます。隣接する斜面にはアオサギのコロニーがあり、運が良ければ、アオサギのヒナを狙ったオジロワシの、上空からの急降下が見られるかもしれません。

釧路市動物園は、1975 年に開園して以来、釧路湿原を代表する鳥で国の特別天然記念物であるタンチョウや、北海道に生息するシマフクロウの保護増殖に取り組んできました。いずれも現在、保護増殖事業者として認定されています。また、少数ではありますが一般種も受け入れており、アザラシの幼獣などの保護実績があります。そのなかで今回は、タンチョウ保護への取り組みについてご紹介します。

【釧路市動物園のタンチョウ保護への取り組み】

釧路市動物園は、環境省タンチョウ保護増殖事業の一翼を担い、タンチョウの保護・増殖に取り組んでいます。主な業務は、①レスキュー（傷病保護個体の治療）、②死因調査（死体収容個体の病理解剖）、③域外保全（飼育下繁殖群の維持）の3つです。釧路市丹頂鶴自然公園、阿寒国際ツルセンターも含めた3施設で、約35羽（10ペア）のタンチョウを飼育しています。これらの業務から得られた知見やサンプルを元に、来園者や市民の皆さんへの普及啓発や、大学や研究機関との連携による調査研究にも取り組んでいます。

レスキューされてきたタンチョウの治療・療養施設は、釧路市動物園内に設置されています。

越冬舎（入院舎）3 ケージ（2 羽収容）



加藤秋霜記念丹頂動物病院 手術室等

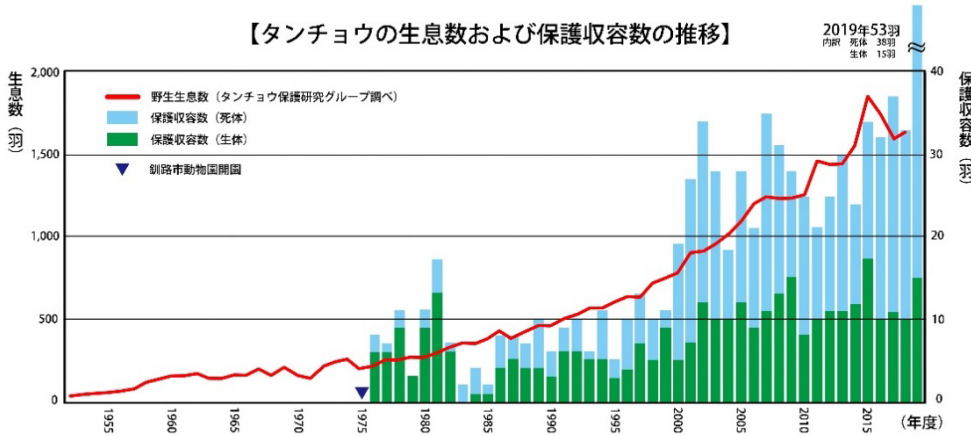


ツル舎（長期療養施設）6 ケージ

【タンチョウ・レスキューの現場から】

2021 年には生息数が 1900 羽まで回復している一方で、事故（保護収容数）の増加や人とのあつれきも目立つようになっています。近年は、年間 10 羽前後の傷病保護があり、保護理由は、交通事故や電線衝突、スラリーへの転落やネット絡まりなど、事故によるものが大半です。義足やハンモックなどの治療道具を手作りするなど、工夫しながら治療に取り組んでいます。野生復帰の難しい個体は、飼育下繁殖群で活躍してくれています。しかし、事故により重傷を負っている場合や、受傷から保護までに時間を要する場合も多く、救命率は低いのが現状です。

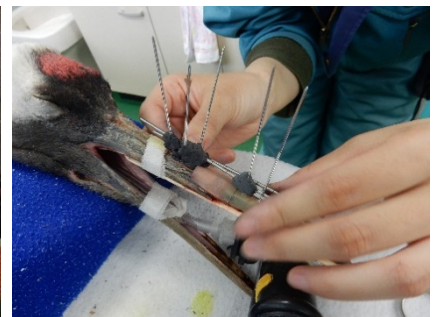
【タンチョウの生息数および保護収容数の推移】



＜義足のタンチョウ＞

また、現在すでに 5 羽の義足のタンチョウがツル舎で暮らしており、収容施設の不足から、新規傷病保護個体の受け入れも難しくなっています。そこで、「1羽でもタンチョウの事故を減らしたい!」「この先のタンチョウとの共生を考えて欲しい!」と、最近は普及啓発にも力を入れています。2018 年からは、園内で義足のタンチョウの公開飼育を始めました。現在、ツル舎で3羽を公開しています。飼育下繁殖群に参加できない彼らも、その姿から来園者に共生について考えてもらうことで、保護活動への貢献を目指す作戦です。2019 年からは、タンチョウの現状をお話ししながら普段は見られない保護施設や動物病院、手作りの治療道具などを見学する「タンチョウ・レスキュー・ガイド (ミニバックヤードツアーつき)」も始めました (現在コロナ禍により休止中)。2020 年からは、Twitter「まいにちタンチョウ・レスキュー@釧路市動物園【公式】」で、レスキューや治療の様子、交通事故の防止のための啓発、釧路市動物園のタンチョウたちの毎日を発信しています。ぜひフォローして下さい。励みにします。

そして 2021 年、今まさに、パネル展「タンチョウ・レスキュー展 ～タンチョウ・レスキューの現場から～」が北海道内の 4 動物園 (旭山、おびひろ、釧路、円山) を巡回中です。各園では講演会も開催予定。あいにくのコロナ禍ではありますが、公式 Twitter 等で開催状況をご確認の上、ぜひお出かけ下さい。



＜治療の様子 (上段)、ヒナ放鳥の瞬間 (下段左)、ガイドの様子＞

令和3年度 油等汚染事故対策水鳥救護研修のご案内

WRV事務局 齊藤量子

日本では未だに、全国各地で海洋における油等汚染事故が多数発生しています。そのため環境省自然環境局では、油等汚染事故などの発生時に、海洋保全と野生生物保護の観点から迅速かつ的確に対応できるよう、「油等汚染事故対策水鳥救護研修」を例年開催しています。

会員の皆さまには、是非、本研修にご参加いただき、そこで学ばれた事を職場における事前準備や実際の事故対応にお役立ていただきたく、改めてご案内申し上げます。

研修の詳細な案内および参加申込み用紙は、環境省水鳥救護研修センターホームページまたは野生動物救護獣医師協会ホームページからダウンロード可能です。詳しい開催日程が決まりましたら掲載いたしますので、今しばらくお待ちください。ご質問等ございましたら、環境省水鳥救護研修センターまでお気軽にご連絡ください。



生体を用いた洗浄実習



リハビリプールの設置実習

日 程：第1回：現場救護リーダー向け 令和3年10月開催予定
第2回：現場救護リーダー向け 令和3年11月開催予定
第3回：鳥獣保護行政担当者向け 令和4年1月開催予定

現在日程を調整中です。例年通り水鳥救護研修センターでの開催を目指して準備を進めておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑みて、オンライン開催になる可能性もありますのでご了承ください。

会 場：環境省 水鳥救護研修センター研修室 (第1～3回研修)
〒191-0041 東京都日野市南平 2-35-2 TEL 042-599-5050 FAX 042-599-5051
HP <http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/oiled-wb/>

対 象：国・地方自治体の鳥獣行政等職員、鳥獣保護センター等職員、獣医師、
鳥獣保護員、動物園・水族館職員、水鳥救護に携わる関係者等

参加費：無料（参加のための交通費、宿泊費等は自己負担）

申込先：環境省 水鳥救護研修センター
〒191-0041 東京都日野市南平 2-35-2 TEL 042-599-5050 FAX 042-599-5051

主 催：環境省

請 負：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会（WRV）

「野生動物医学への挑戦 寄生虫・感染症・ワンヘルス」 (浅川満彦 著)

本書は、寄生虫学および野生動物医学の分野において、長年に渡りそのリーダーとして活躍してこられた酪農学園大学教授の浅川満彦先生による最新の労作です。浅川先生には、WRVも当初から様々な形でご指導をいただいております。また大学内に野生動物医学センター(WAMC)も設立され、野生傷病鳥獣の救護活動や感染症対策および病理学的な研究など、幅広い活動を臨床的に進められており、その実践力と行動力は国内でもトップクラスと言って間違いありません。

内容についてもかなり多岐に渡っており、まず寄生虫学および寄生虫病学に関する基礎から専門領域に渡る記述から始まり、続いて国内外におけるこれまでの野生動物医学の歩みや研究実態について述べられ、さらに鳥類における寄生虫相や野生動物の様々な感染症の病原体について、専門性の高い臨床事例も含めて順次分かりやすく解説され、最後の章においては、これから将来を担う次世代に向けて、野生動物医学に携わるための具体的な方法や選択肢について、大変興味深い内容が綴られております。

なお、本書には寄生虫学や野生動物医学、およびそれに関する様々な学問分野に対する浅川先生の情熱が貫かれており、その熱量は読者の心を動かさずにはおきません。また、それぞれの記述が先生の実体験により裏付けられているので、読者は誰しも、臨場感を持ってその内容を受け取ることができるでしょう。参考文献等も豊富に紹介されているので、大いに役立つことと思われまます。

本書は、これから獣医学や動物看護学分野等において、寄生虫病学や感染症学、野生動物医学や保全生物学を学ぼうと考えている中学生や高校生を始め、現在、それらを学んでいる現役の大学生や大学院生、そして獣医療の現場で実際に活躍されている関係各位、さらにはこうした分野に少しでも関心を持っておられる一般の方など、できる限り多くの方々に広く一読をお勧めしたい好著です。WRV 会員の方々にも、是非一度、手に取っていただくと有難く存じます。

(WRV 事務局長 箕輪 多津男)



「野生動物医学への挑戦 寄生虫・感染症・ワンヘルス」 浅川満彦 著

本体価格：2,900円(税別) サイズ：A5版 ページ：208ページ

発行日：2021年6月4日 出版社：(一財)東京大学出版会

◆問い合わせ先◆ (一財)東京大学出版会 〒153-0041 東京都目黒区駒場4-5-29

Tel) 03-6407-1069 Fax) 03-6407-1991

【事務局より寄付のお礼】 寄付ご協力者(敬称略)(令和3年6月1日から令和3年8月31日)

○寄付金(一般) 2021.8.18 白倉 豊 10,000円

事務局日誌 2021.6.19~2021.9.15

=== 6月 ===

20,27: 東京環境工科専門学校生・インターンシップ(犬猫・野生動物救護センター)[神奈川支部]

対応: 皆川

23: 第78回日本獣医師会 通常総会(明治記念館)

対応: 小松、中川

| | |
|---|---------------|
| 23 : 令和 3 年度第 2 回日本獣医師連盟 役員会 (明治記念館) | 対応 : 小松 |
| 25 : WRV ニュースレターNo.117 発行 | 対応 : 小松、箕輪、齊藤 |
| === 7 月 === | |
| 01,02 : 東京環境工科専門学校生・野生動物救護実習 (東京環境工科専門学校) [神奈川支部] | 対応 : 皆川 |
| 03,11,16,20,24,25,27 : 東京環境工科専門学校生・インターンシップ (犬猫・野生動物救護センター) [神奈川支部] | 対応 : 皆川 |
| 04 : 2021 年度・第 1 回日本コウノトリの会役員会 (リモート・委任) | 対応 : 箕輪 |
| 05 : 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (遠隔授業) | 対応 : 箕輪 |
| 06~07 : 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (上野原キャンパス) | 対応 : 皆川 |
| 06 : 傷病野生鳥獣保護治療状況確認 ((公社) 東京都獣医師会・書面) | 対応 : 箕輪 |
| 08 : 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (環境省水鳥救護研修センター) | 対応 : 皆川、齊藤 |
| 09~8/15 : WJVF 第 12 回大会 (オンライン大会) | 対応 : 新妻 |
| 12 : 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (遠隔授業) | 対応 : 箕輪 |
| 13~14 : 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (上野原キャンパス) | 対応 : 皆川 |
| 15 : 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (環境省水鳥救護研修センター) | 対応 : 皆川、齊藤 |
| 16 : 埼玉県小川町におけるメガソーラー事業問題に対する関係省庁への要望書提出 (参議院議員会館) | 対応 : 小山 |
| 21 : 神奈川県鳥獣総合対策協議会・シカ対策専門部会 (書面開催) [神奈川支部] | 対応 : 皆川 |
| 27 : 令和 2 年度 WRV 事業報告書提出 (東京都庁・郵送) | 対応 : 箕輪 |
| 29 : 第 3 回練馬区西青色申告会 理事会 (書面評決) | 対応 : 新妻、町田 |
| 29 : 山梨県アライグマ捕獲従事者養成講習会 (山梨県庁防災新館) | 対応 : 加藤 |
| 29 : わいわいサロン (オンライン) [神奈川支部] | 対応 : 皆川 |
| 30 : 洋上風力ウェビナー「洋上風力発電が鳥類等に与える影響」((公財)日本野鳥の会) | 対応 : 小山 |
| === 8 月 === | |
| 02 : 2021 年度・日本コウノトリの会総会 (書面) | 対応 : 箕輪 |
| 16 : 南多摩獣医師会・稲城部会 オンライン会議 | 対応 : 小松 |
| 25 : 埼玉県小川町・メガソーラー事業計画に対する希少種調査報告記者発表 (ウェスタ川越・会議室) | 対応 : 小山 |
| 27 : 神奈川県鳥獣総合対策協議会 (書面開催) [神奈川支部] | 対応 : 皆川 |
| 27~29 : いきものミュージアム YouTube「ヒナを拾わないで!でもどうして? 他」[神奈川支部] | 出演 : 皆川 |
| 28~31 : 日本哺乳類学会 2021 年度大会 (Web 開催) | 対応 : 羽山、加藤、小山 |
| === 9 月 === | |
| 02 : オンライン・シンポジウム「洋上風力発電の環境配慮のあり方について」(環境省) | 対応 : 小山 |
| 06~13 : 第 164 回日本獣医学会・学術集会 (Web 開催) | 対応 : 新妻、羽山、加藤 |
| 08 : 洋上風力ウェビナー「風力発電と鳥類における累積影響評価」((公財)日本野鳥の会) | 対応 : 小山 |
| 08 : わいわいサロン (オンライン) [神奈川支部] | 対応 : 皆川 |
| 09 : 埼玉県獣医師会北支部講習会「新型コロナウイルス感染症対策および動物への感染について (Web 開催) | 対応 : 小山 |

野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 118 2021.9.25 発行

発行 : 特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局 : 〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人 : 新妻 勲夫 編集文責 : 小松 泰史 編集担当 : 箕輪多津男